

緑豊かでゆとりと潤いのある快適な環境と美しい景観の創造をめざして

2014.3月号

通巻 第480号

日造協

ニュース

Japan Landscape Contractors Association NEWS

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>
〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012

本号の主な内容

- 2.3面【特集】第40回全国造園デザインコンクール 審査講評・入選作品
- 2面【学会の目・眼・芽】他分野から見た「造園」の領域と可能性
(公社)日本造園学会幹事・日本大学理工学部助教 押田佳子
- 4面【ふるさと自慢】群馬県 山田忠雄(山梅造園土木㈱)
全国屈指の温泉街と小麦粉食品 世界遺産候補「富岡製糸場」も見所
【緑滴】植物で「遊ぶ」方法を見つけない 佐々木 望(内山緑地建設㈱)
【日造協賛助会員の紹介】㈱マリブジャパン

日造協会員の方々の「日造協ニュース」は偶数月がPDF版の配信で、印刷物の発送は行っていない。会員の方々のメールニュースへの添付、日造協ホームページに掲載をしていますので、ご活用ください。



受賞者と審査委員をはじめ関係者で記念撮影

日造協主催

第40回 全国造園デザインコンクール

文部科学大臣賞 長野県須坂園芸高等学校

国土交通大臣賞 宮師麻希さん(滋賀県立八日市南高等学校)

日造協は、第40回全国造園デザインコンクールの表彰式を3月15日、東京都千代田区麹町の弘済会館で開催。賞状の授与、受賞者による作品発表を行った。

全国造園デザインコンクールは、美しい国土と快適な生活環境の実現に欠かすことのできない造園空間のデザインと設計技術の向上を図ることを目的に日造協が主催。(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会、全国高等学校造園教育研究協議会の共催、文部科学省、国土交通省、全国農業高等学校長協会、(公社)日本造園学会、NHKの後援をいただくなど拡充を図っており、日造協の事業委員会人材育成部会が事業の実施にあたっている。

全国造園デザインコンクールは、今回で40回目を迎え、今回は、「住宅庭園部門」には一般3、大学38、高校172、「街区公園部門」には大学23、高校48、公共的空間部門をより具体的なものとするために課題を変更し、合わせて部門名を改称した「商業施設部門」には大学21、高校16、「実習作品部門」には大学5、高校19の合わせて、353点の応募があり、入選18点、佳作10点、奨学賞23点が選ばれた。

特別賞は、文部科学大臣賞に長野県須坂園芸高等学校、国土交通大臣賞に宮師麻希さん(滋賀県立八日市南高等学校)、(公社)日本造園学会会長賞に久保香織さん(長野県須坂園芸高等学校)、(一社)日本造園建設業協会会長賞に藤井宏海さん(西日本短期大学)、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会会長賞に川辺タツヤさん(愛知県立猿投農林高等学校)、全国高等学校造園教育研究協議会会長賞に田中茉優さん(山梨県立農林高等

樹林

日造協理事、北陸緑化㈱代表取締役会長

宇坪啓造



街路樹の育成について

(一社)日本造園建設業協会の認定資格街路樹剪定士について、少し考えてみたいと思います。

木と樹の違い、高木、中木、低木の違いを考え、街路樹とは？道路に面した処に植えこむ樹木を言い、街並みに彩りを与え、美しい景観を創る。また、地域の快適な生活環境をつくり、安全で美しい道路環境をつくる。防災に役立てる等、色々な役割を、それはもっています。歩いて、見て、楽しめる並木道、また、花の咲く木、緑を楽しむ木、紅葉を楽しむ木と、それぞれの特色を持った並木路を、先輩達が作り、今日に至っております。

木と樹の違いは、と聞かれた時、ある文献「フリー百科辞典『ウィキペディア』」によると、木「き、英：tree, woody plant」とは、植物の一種を指すための用語。樹、樹木(じゅもく)とも言う。木本(もくほん、植物学用語)とも。用材や材木のこと。と記されております。

街なかの通りに、創出される街路樹は、現在、植栽後数十年を経過したもの、及び適合性が図られた樹種選定がないもの、また、樹木固有の特性を生かす剪定が行われないため、街路樹本来の役割や姿を保てない状況となってきておるのが現状ではないでしょうか。

さて、街路樹の剪定は、近年、県、市、町村に於いて業務委託で発注されており、樹木本来の姿をなくし、ただ単に大きな太

い幹ばかりがのこり、先端部に、コブ状のものが出来ている樹形が多くみられる現状であるようです。

剪定の意義、夏季剪定、冬季剪定を問わず、ただ単に落ち葉を無くす為に枝を切除するという状況が、数多く見受けられます。

街路樹剪定士の資格は、何故必要なのでしょう。

工事受注の条件を満たすために取るのでしょうか。私の地元の市では、これらの事から、昨年来「街路樹指針検討委員会」を設置し、緑の路創りに向けた取り組みを始め、今年2月完成をみました。

その中で、私は、樹木を育む剪定について疑問を持ちました。一般の土木工事に於いては、設計図書に必ず規格が明記され、それに基づいて施工され完成検査等がなされていると思います。しかしながら、我々が通常受注している剪定工事には、寸法は明記されていないのが現状です。街路樹剪定士の資格を有している皆さんが行政側にこの点をよく説明し、剪定工事発注の際ケーススタディを設計書に付けて、より良い剪定がなされるよう働きかける必要があるのではないのでしょうか。

そこで初めて日造協の認定資格が重要視され、より良い街路樹の再生、より良い景観の街並みが生まれてくるものと思います。

一寸した心がけで、春には花が咲き、秋には紅葉を楽しむ美しい街並みが生れて来ることと信じます。

学校)、清水大さん(京都府立農芸高等学校)が選ばれた。

表彰式は大雪の影響で2月15日から3月

15日に延期して実施。冒頭、和田新也日造協副会長があいさつ。応募に当たって指導された先生方をはじめ、関係各位への感謝とともに、今後一層、コンクールが広く社会に寄与していくことへの期待を述べた。

次いで、田畑淳一文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室教科調査官が、「感性を磨くには、いいものを見ることが大事。まずコンテストの入賞作を見て欲しい」などと述べ、町田誠国土交通省都市局公園緑地・景観課緑地環境室長が、「造園を学ばれている応募者の皆さんと一緒に仕事ができる日を楽しみにしている」など、期待を述べた。

その後、特別賞の授与、受賞者による作品発表が行われ、最後に藤井英二郎千葉大学園芸学部教授が講評。記念撮影を行った。

(2・3面に特集)

造園技術フォーラム

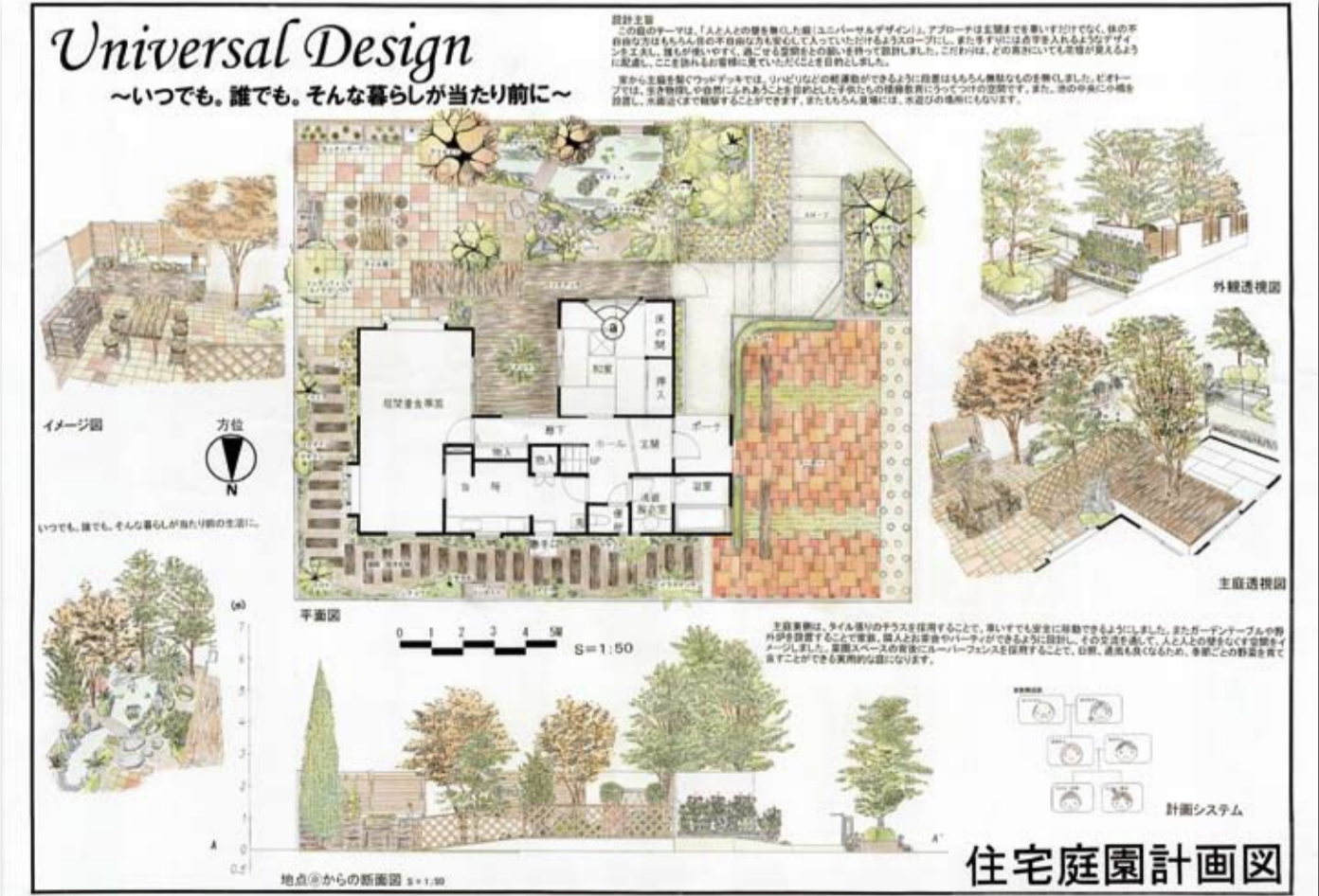
4月23日(水)14:00～開催

静岡県浜松市中区板屋町111-1 アクトシティ浜松

造園技術フォーラムは、平成19年から7回にわたって開催してきた「技術情報共有発表会」を改称し、これまで以上に会員の情報共有と広く社会にアピールするために実施。

4つの日造協総支部と(公社)日本造園学会からの発表を行うほか、17:30から中部総支部主催の交流会を開催する。

皆様お誘いあわせの上、ご参加ください。詳細は日造協ホームページをご覧ください。



国土交通大臣賞 宮師麻希 滋賀県立八日市南高等学校

法定福利費の内訳を明示した標準見積書の活用により、法定福利費の確保を図りましょう！

第40回全国造園デザインコンクール 審査講評 入選作品

■藤井英二郎委員長

(千葉大学園芸学部教授)

昭和49年に始まった造園デザインコンクールは、造園教育の振興を図ろうとする高等学校造園教育協議会の熱意に造園建設業協会が賛同して始まったとされます。今回は長年に亘って継続的に応募されている静岡県立静岡農業高等学校に第40回記念特別賞を授与することに致しました。

審査は、例年通り10人の委員で丸1日かけて行いました。その結果、昨年同様、住宅庭園部門に優れたデザインが多くみられましたが、今年の特徴は高校生の街区公園に優れたデザインが多く見られたことです。公園周囲の土地利用を踏まえて公園のゾーニングや利用動線を検討した上で細部の構成を検討している点は高く評価できました。また、今回新たに設定した商業空間部門を含めて高校生に優れたデザインが多かったのに対して、大学生のデザインは物足りませんでした。しっかりとした実態把握と高い理念をもとに時代を先導するデザインが期待されます。大学生では、実習部門に優れたものがありました。実習には、新規施工や復元、改修・改造などがありますが、施工前の状態と施工途中段階、竣工後が比較できる写真を添えることで設計・施工の技術や工夫が明確になります。

■田畑淳一委員（文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室教科調査官）

今年度の応募数は、昨年度と同程度であった。審査は、甲乙つけがたく長時間になったが、応募された皆様のすばらしい作品をたくさん拝見することができた。これまでの皆さんの努力に敬意を表し、御指導いただいた先生方に改めて感謝を申し上げる。

今年は、新たに「商業施設部門：商業施設の屋外空間」が課題となり、日頃買い物に出かけている商業施設を造園の1空間として捉える中で創造性あふれる作品が多く寄せられ

ていた。

作品制作には、日頃から感性を高めるトレーニングや基礎的・基本的な技術鍛錬が必要で、地道な取り組みが不可欠であろうと考える。

また、実習作品は地域のイベントや文化祭等で作成する機会や課題研究等による卒業制作等をうまく活用することで挑戦できる内容であり、学習成果を外で評価いただく機会として捉え教育的視点で応募へ向けた学習計画から整理することも必要ではないかと考える。

今年の文部科学大臣賞は、入賞数が多数で、実習作品でも評価の高かった長野県須坂園芸高等学校とさせていただいた。特に造園デザインを実習作品ベースでもきめ細かに指導されていることは高く評価できる。

今後も造園デザインを学ぶ生徒皆さんのレベルアップにつながり、コンクールのより更なる充実・発展を祈念し講評とする。

■町田誠委員（国土交通省都市局公園緑地・景観課緑地環境室長）

主催者である日本造園建設業協会の皆様、御指導に当たられている先生方、そして多数の応募をいただいた生徒・学生の皆様に心より敬意を表しますと共に感謝申し上げます。

審査を通じて、様々な個性の中にも、一人ひとりが持つ問題意識とどのように対応していくかという明確な意図をそれぞれの作品から感じ取ることができ、頼もしくまた心強く感じました。住宅庭園部門では、主庭に南面する和室と居間、そしてポーチへのアプローチという3点に重点を置いて見せていただきましたが、所謂戶外室としての構成や地域の中のオープンガーデンとしての作品も多数あり、応募者の豊かな発想を感じ取ることができました。国土交通大臣賞を受賞された滋賀県立八日市南高等学校の宮師麻希さんの作品「Universal Design」は、こうした多くの機能や用途を満たしつつ全体の統一感や調和を



(公社)日本造園学会会長賞 久保 香織 長野県須坂園芸高等学校

感じさせる、作品名どおりの優しさが巧みに表現された庭であると感服いたしました。皆様のこれからの活躍を心から御期待申し上げます。

■宮城俊作委員（(公社)日本造園学会副会長）

永きにわたって実施されてきたこのコンクールの主役が、高等学校で造園を学ぶ生徒さんたちであったという事実は、第40回を迎えた本年度の応募作品群をみても実感されるものでした。

特に街区公園部門や商業施設部門における作品の多くは、提案内容やプレゼンテーションの表現において大学生の作品を凌駕しているように思われます。

「日本造園学会会長賞」を受賞した久保香織さんの商業施設を対象とした提案では、建物の高低差を活用した風の通り道を屋外空間に導入することや、廃油を再利用するバイオディーゼル燃料の提案など、環境負荷の低減にむけたしくみがデザイン的にもすぐれた表現の中にとりまとめられています。

■大室徳治委員

(全国高等学校造園教育研究協議会理事長)

今回の応募作品も力作が多く、各学校での熱心な取り組みに感謝します。例年のように、

住宅庭園、実習作品部門で優れたものも多く見られました。残念なことは、応募要項に合致しない作品があったことです。設計主旨の記載漏れや縮尺間違いなどの作品があり非常に残念です。

新しい課題の商業施設部門には、全体で37点の作品が応募されました。課題内容の読み解きが進めば、次回以降は多くの応募があると考えます。

実習作品については、本年もとても素晴らしいのですが、掲載する写真選別に工夫があればと感じます。制作風景や、施工前・後の写真などを利用して、工夫した点などがわかるようにしてはと考えます。

次回もたくさんの応募をお願いいたします。

■鈴木一志委員

(全国高等学校造園教育研究協議会副理事長)

今回の造園デザインコンクールは、40回目の節目を迎え、各校の出展作品にも力のこもったものが数多くあったように感じました。また、新しい発想を取り込もうということ、公共的空間の課題内容が変更されたことも、出展作品に変化を与えるきっかけとなったように感じました。これもひとえに、毎年数多くの作品を応募していただいている高等学校

学会の目・眼・芽 第54回

他分野から見た「造園」の領域と可能性

(公社)日本造園学会幹事・日本大学理工学部助教 押田佳子

私は2006年より日本大学理工学部に身を置き、海洋建築工学科、社会交通工学科（現・交通システム工学科）、そして2013年に新設されたまちづくり工学科、を渡り歩いて来ました。先の2学科では、建築・土木と古くよりわが国の社会基盤整備を担ってきた分野を扱っており、私はこれらの分野に関連する範囲での「環境（特に自然・生態系）」「景観」についての教育・研究活動に携わって参りました。

当初は、農学部の造園系学科で学んで来た私が、異なる分野で何をどのように伝えていけば良いのかを模索していましたが、予想以上に造園への関心が高かったことが印象的でした。特に土木における造園が持つノウハウへのニーズは高まっており、とりわけ景観・まちづくりへの関心の高さは目を見張るものがあります。

顕著な例としてワークショップを挙げてみましょう。1960年代に造園の専門家の手により日本に持ち込まれたワークショップは、その後のまちづくりの現場において地域住民との合意形成を図る手法として広く浸透していきました。特に、阪神・淡路大震災の復興まちづくりの過程においては、住民の意向をいかに復興計画に反映させるかという局面でワークショップが多用されるようになったことは周知の通りです。以降、ワークショップはまちづくりにおける住民参画のツールとして様々な分野の専門家によって用いられ

るようになりましたが、東日本大震災後の復興まちづくりにおいては、土木の専門家集団によって被災各地の社会基盤整備に伴う地域住民との合意形成の場に積極的に用いられ、地域レベルでの復興まちづくりの進展に大きく貢献しています。

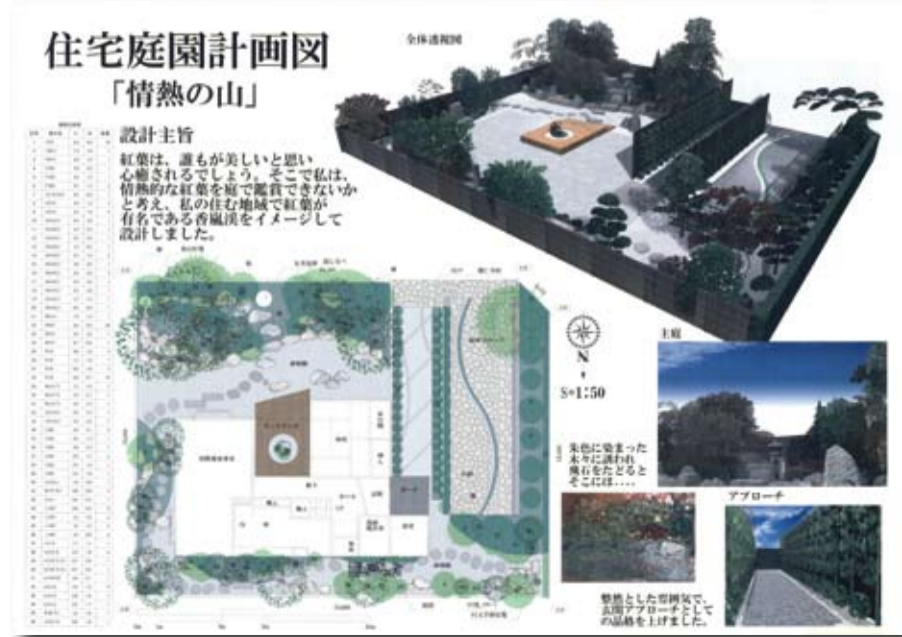
また、土木学会の「景観・デザイン研究委員会」は1996年に創設された、比較的新しい委員会ではありますが、これまでに開催された9回の研究発表会の他に積極的にシンポジウムなどが展開されるなど、土木分野における景観の裾野を広げることに寄与しています。

このように、近年、造園が培ってきたノウハウは、他分野においても重要なツールとして認識されるだけでなく、それを自らの糧として積極的に取り入れる機運が高まってきています。これは一方で、我々造園分野の人間の活躍の場が広がり、他分野と連携した新たな展開の可能性が大いにあるといえます。

2013年にまちづくり工学科が新設され、そこに異動して初めて「造園学」としての講義を持つことになりました。ここで教育を受けている学生たちは、数年後にはまちづくりの現場の担い手として世に送り出されます。来るべきその日のために、造園と理工系他分野をつなぐ役割を果たせればと思っています。



(一社)日本造園建設業協会会長賞 藤井 宏海 西日本短期大学



(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会会長賞 川辺 タツヤ 愛知県立猿投農林高等学校



全国高等学校造園教育研究協議会会長賞 田中 茉優 山梨県立農林高等学校



全国高等学校造園教育研究協議会会長賞 清水 大 京都府立農芸高等学校

の先生方のご指導の賜物だと感謝しております。各学校現場の統合や変革の影響を受け、造園教育そのものの継続や発展が難しくなっている現在、このコンクールが今後も継続され発展して行くためには、各学校における先生方のご指導が欠かせません。今後とも宜しくお願いいたします。

■村岡政子委員（（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会理事・関東支部長）

全国造園デザインコンクールの審査を毎年楽しみにしております。若い造園家の方々の瑞々しい感性、造園への熱意に直接触れることができ、今年も元気をいただきました。受賞に至らなかった作品の中にも、素晴らしい発想力に発想賞を差し上げたいような作品もありました。（一社）ランドスケープコンサ

ルトンツ協会会長賞を受賞された川辺タツヤさんの住宅庭園『情熱の山』は、紅葉の名所「香嵐渓」をイメージした作品です。落ち着いた佇まいの和風庭園ですが、晩秋の紅葉の一瞬の輝きを「情熱の山」と捉える感性が新鮮でした。また、今年はCADを使った作品のレベルが向上し、中でもバランスのとれた丁寧な仕上げがなされた本作品が選ばれました。関係者の方々の永年にわたる熱意とご努力に心から敬意を表しますとともに、次回も多数の応募をお待ちしております。

■萩野一彦委員（（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会理事・技術委員長）

ランドスケープコンサルタンツ協会会長賞には、353点の全作品の中から、愛知県立猿投農林高等学校の川辺タツヤさんの作品「情熱

の山」が選ばれました。紅葉をテーマに香嵐渓をイメージしてデザインされた住宅庭園です。着想とデザインにおけるシャープさとシンプル構成の中に日本の庭の原点を感じさせる作品でした。

審査を通じ、日頃デザインの実務に携わる我々も、学校教育の場には貢献すること、また、これから造園の実社会に出ていく学生・生徒の皆さんに、キャリアパスを示せるよう意識し行動することも重要であると感じました。次回も多数の作品の応募と、多くの若者が造園界において活躍されることを期待します。

■卯之原昇委員（（一社）日本造園建設業協会業務執行理事・技術委員長）

今年度の日造協会賞には、多くの作品の中から、計画・施工・利用についてもっとも

優れた作品として、西日本短期大学の藤井宏海さんの実習作品「緑に囲われたくつろぐ和の空間」が受賞されました。

この作品は、学校のガーデニング実習の授業で行われたグループ（7名）作品で、計画時から模型や断面図を取り入れ完成時をイメージしながら計画されておりました。施工については、施工前の現状から施工中の状況や手順が写真や工程表により非常に分かりやすく整理されており、またベンチの高さや、階段、植栽等も利便性を考慮した施工がなされていました。

今回も沢山の作品を出展していただき、応募者、指導者の皆様に感謝すると共に、今後も多くの皆様が造園業界で活躍されることを期待しております。

■風間啓秀委員（（一社）日本造園建設業協会事業副委員長）

全国造園デザインコンクールが開催されて今回が第40回記念となります。

応募者数の増を期待しておりましたが前回8名増の結果でした。応募4部門の内公共空間に変わり商業地域となりました。

そんな中やはり大学生・一般より今年も高校生の応募が多いのとレベルが高い作品を感じた審査でした。

第40回記念特別賞を受賞された静岡県立静岡農業高等学校の皆様おめでとうございす。第1回～第39回において入賞年数32回入賞者数76名の実績は先輩から現役の皆様の努力の結果です。

「継続は力なり」後輩へと繋げ引ききのご参加更なるレベルアップを期待します。



入賞 堅田 泰弘 E&Gアカデミー東京校



入賞 兼平 徹 湘南みどり学園日本ガーデンデザイン専門学校



入賞 茂木 和枝 E&Gアカデミー東京校



入賞 松瀬 央樹 西日本短期大学



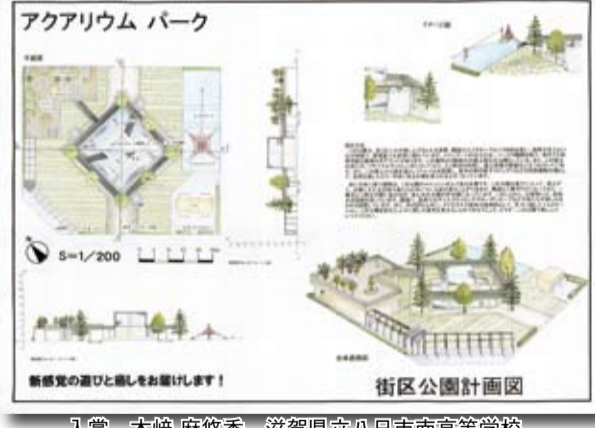
入賞 神林 芽泉 長野県須坂園芸高等学校



入賞 村井 花 滋賀県立八日市南高等学校



入賞 岩瀬 晃 長野県須坂園芸高等学校



入賞 木崎 麻悠香 滋賀県立八日市南高等学校



入賞 竹内 晴香 長野県須坂園芸高等学校



入賞 末村 大輔 滋賀県立八日市南高等学校



入賞 久保 香織 長野県須坂園芸高等学校



入賞 小暮 克也 埼玉県立児玉白楊高等学校

ふるさと自慢
群馬県
全国屈指の温泉街と小麦粉食品
世界遺産候補「富岡製糸場」も見所

『鶴舞う形の群馬』は関東地方の北西部に位置する内陸県であり、空に舞う鶴に似た形をしています。雄大な山岳地帯に囲まれ、その地形や気候から、観光業や農業、養蚕業と多くの産業が歴史を刻んできました。

特に温泉街の知名度は全国トップレベルです。温泉の効能を求め、県内・県外からは多くの方が訪れますが、群馬の温泉には歴史とも深い関係があります。例えば草津温泉は、源氏時代に源頼朝が浅間山での狩猟の途中で旅の疲れを癒したと言わ

れています。歴史的な頼朝の戦いには、草津の効果も一躍貢献しているわけです。因みに草津温泉は超高温のお湯が有名ですが、湯温を下げるために行われる「湯もみ」は観光名物としても知られています。草津の他にもたくさんの温泉があり、様々な効能や歴史があります。ぜひ皆様も何度でも、群馬の温泉街へお越し下さい。

また、群馬に立ち寄った際は是非ご賞味頂きたいのは「焼き饅頭」と「おきりこみ」。二毛作が盛んな群馬県は有数の小麦産地

であり、小麦粉食品が多く見られます。焼き饅頭とは？その名の通り、饅頭を焼いて串刺しにして頂くおやつです。群馬県限定で食されている焼き饅頭は、焼く際につける濃厚な味噌だれがふわふわのお饅頭に焼きついてとてもおいしく、懐かしい味わいです。また、小麦食品でお馴染みのおきりこみとは、皆様もご存知、旬の野菜や根菜、キノコなどを生麺と一緒に煮込んだ郷土料理です。薄く幅広い形の麺は、火が通りやすく、だしの旨みを吸いやすくするために工夫されています。寒い冬に皆で鍋を囲んで頂く光景は、至福の時間ですね。

最後に、これら今でも愛される温泉や郷土料理に加えて、群馬の誇り高い歴史を語る産業が、「蚕糸業（製糸・養蚕）」です。働き者の群馬の女性が「お蚕さま」を飼い、せっせと繭から糸をひいたりしたことが契機になり、蚕糸業はわが国を代表する基幹産業として発展しました。世界遺産候補「富岡製糸場と絹



おきりこみ④と焼き饅頭⑤



草津温泉

産業遺産群」はそんな群馬の貴重な歴史を今に伝える文化財です。2014年6月、いよいよ世界文化遺産の登録可否が決まります。登録が決まったあかつき

には、ここでは語りきれない群馬の蚕糸業の歴史などについてご紹介させていただければと思います。
山田忠雄（山梅造園土木株）

日造協賛助会員の紹介 (株)マリブジャパン
LED照明・12Vガーデンライト等の製造販売

会社の理念である「灯りの文化」を広めるため、12Vの低電圧LED商品を日本で初めて導入し、安心で安全なガーデンライト、ソーラーライト、LEDを使用した商品を製造販売しております。

環境に優しい、快適な光生活にお役に立つことがマリブジャパンの願いです。

■12Vマリブライトの特長

- ① 経済的
例えば1Wライトの場合、1カ月で約5円と大変お得です。（1日7時間使用）
- ② 簡単設置
お庭を掘り起こすような大掛

かりな工事は不必要。既存の庭に後付のできるガーデンライトです。

③ 便利
光センサーとタイマーで自動点灯・自動消灯します。

④ 安全
12Vなので漏電・感電の心配がなく、免許をお持ちでない方も取付可能です。詳しくはHPをご覧ください。
<http://www.malibu-japan.co.jp/>



(株)マリブジャパン
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-23-12755
TEL:03-3377-1218
FAX:03-3377-1219

日造協ホームページを改善中
より見やすく使いやすく

日造協は、一昨年ホームページを全面改修し、現在、より見やすく使いやすいホームページを目指し、改善を図っています。ご活用いただき、ご意見、ご要望をお聞かせください。



建設業年度末労働災害防止強調月間
3月1日～3月31日

建設業労働災害防止協会の主唱で、3月1日から3月31日まで、「建設業年度末労働災害防止強調月間」が実施される。

同月間は、年度末は多くの工事が竣工に向け、あわただしく、また、工事関係者、職種の出入りも多く、作業の油断も生じやすい時期であることから、この時期の建設現場の安全衛生管理を徹底するため、労働災害防止運動を展開し、経営トップ、建設現場の管理監督者等の関係者は、一層の安全衛生水準の向上を目指し、店社と作業所との緊密な連携のもとに一体となり労働災害防止活動を強化するものとしている。

具体的には、次の重点事項①～⑪を参考に、企業の実情に応じて必要な事項を盛り込んだ実施計画を作成し、積極的に推進する。

- ①経営トップ、管理責任者等による年度末安全パトロールの実施
- ②リスクアセスメントの確実な実施
- ③建設業労働安全衛生マネジメントシステム（コスモス）の導入、実施
- ④墜落・転落災害防止対策の徹底
- ⑤建設機械・クレーン等災害の防止対策の徹底
- ⑥倒壊・崩壊災害の防止対策の徹底



植物で「遊ぶ」方法を見つけない
佐々木 望
内山緑地建設(株)

海を臨む小高い丘。春は桜が丘一面を桃色に染めあげ、晩秋にはモミジの森がみごとな錦秋をつくりだします。一この風光明媚な景色を有するのは北九州市立白野江植物公園。貿易の中継地として栄えた九州の最北端・北九州市門司区にあり、桜に牡丹、竹林に落葉樹の森、丘の麓には築80年の日本家屋が建ち、懐かしい日本の原風景が広がる情緒あふれる公園です。私は現在、指定管理者として当園の広報対応とイベント運営の業務を担当しています。

植物をただ育てるだけ、眺めるではもったいない。もっともっと好きな植物で「遊ぶ」方法を見つけない！仕事はもちろん、プライベートでもこれが私のテーマです。

庭がなくても花を愛で、自然と過ごすことは可能です。当公園はそれを証明するのにとて



も適した場所かもしれません。季節の花を楽しむ方はもちろん、図鑑を片手に植物観察をする方、日課のウォーキングに来られる方、植物や野

鳥をレンズに収める写真愛好家、スケッチをしたり、俳句の題材を探して散策したりと、利用者のみなさんは、実に上手に植物と遊んでいらっしゃいます。

わたしたちからも魅力や活用法を発信すべく、園内の植物をつかったクラフト教室や野鳥観察会、写真教室などを定期的に開催しています。この春からは植物療法を学べるアロマテラピー講座もはじまります。ほかにも、野点やコンサートなど多くの方が楽しめる催しも行っています。また、菊づくり愛好会や花壇管理ボランティアの活動をとおして地域住民との交流も大切にしています。

植物を観賞するだけでなく、その先に趣味や学習の場があり、人と繋がり、世界が広がるきっかけになりたい、植物や公園が人の暮らしに基づいたものでありたいと考えています。

そして、公園管理に携わるものとして、植物の専門知識を得ると同時に、それらを美しく魅せるセンスを磨くことを自らの課題としています。音楽やアート、ファッションやインテリア、食などあらゆる美しいものに幅広く興味を持ち、身に付けることは、おのずと業務に反映され、植物や公園の魅力を広く、そして魅力的に伝えてゆけるのではと思っています。

植物や公園の存在が心豊かな生活のエッセンスとなれるよう、これからも業務に取り組んで参ります。

- ⑦不安全行動による災害防止対策の徹底
 - ⑧交通労働災害防止対策の徹底
 - ⑨安全衛生教育の推進
 - ⑩職業性疾病预防対策等の徹底
 - ⑪健康管理の徹底
- 詳細は建設業労働災害防止協会（<http://www.kensaibou.or.jp/>）まで。

事務局の動き

- 【2月】
 - 21(金)・社会保険未加入対策講習会等（岩手県支部）
 - 24(月)・第2回登録造園基幹技能者講習試験委員会・第2回造園施工管理技術検定委員会
 - 25(火)・造園・環境緑化産業振興会事務局会議
 - 26(水)・登録造園基幹技能者講習委員会
- 【3月】
 - 3(月)・日本造園建設業厚生年金基金理事会・日本造園建設業厚生年金基金代議員会
 - 4(火)・中国総支部・支部交流会
 - 5(水)・総務委員会（広報活動部会）
 - 6(木)・事業委員会（要望・提言活動部会）
 - 13(水)・国立公園懇談会
 - 15(土)・第40回全国造園デザインコンクール表彰式
 - 21(金)・第31回全国都市緑化しずおかフェア～6/15

- 24(月)・総務委員会（財政・運営部会）
- 28(金)・総支部長等会議・第2回通常理事会
- 【4月】
 - 1(火)・春の都市緑化推進運動～6/30
 - 3(木)・運営会議
 - 12(土)・「桜を見る会」（内閣総理大臣主催）
 - 15(水)・みどりの月間～5/14
 - 23(水)・造園技術フォーラム、交流会
 - 24(木)・総支部長・支部長合同会議、花と緑のつどい
 - 25(金)・総支部長・支部長合同会議都市緑化フェア視察

委員会等の活動

- 総務委員会（広報活動部会）
日造協ニュース2～4月号の内容等について審議した。（2月6日）
- 技術委員会（調査・開発部会）
「(仮称)みどりの発生材リサイクルのガイドライン」と「(仮称)公園・緑地樹木剪定ハンドブック」の編集を行った。（2月12日）
- 事業委員会（人材・育成部会）
「地域リーダー勉強会」を北九州市で開催。全国各地から造園関係者98名が集り、技術と事業に関する事例発表会と現場視察を行った。（2月7日）

編集後記 消費増税前の年度末、今年は特に慌ただしいような気がします。今月号はそんな中での編集会議でした。皆様のお手元に届けられる頃には、そろそろ南から桜前線の便りも聞こえてくるのでしょうか。